

神の印

神の印ってなに？

「神の印」とはいったい何なのでしょう？聖書にはこのように書いてあります。

わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである。(エゼ20:12)

これは永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである。それは主が六日のあいだに天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである』。(出31:17)

そして、アブラハムは割礼というしるしを受けたが、それは、無割礼のまま信仰によって受けた義の証印であって、彼が、無割礼のまま信じて義とされるに至るすべての人の父となり、かつ、割礼の者の父となるためなのである。(ロマ4:11,12)

7日目の安息日は、創造の記念日です。創造の記念日である安息日を守ることは人間と神様の間の印となるのです。

神の印はどこにおされるの？

「神の印」が私たちのどこにおされるか、それは聖書に書いてあります。

また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」。(黙7:2,3)

聖書の言葉通り、「神の印」は額におされます。頭の中には脳みそが入っていますね。私たちは脳みそで考え、行動します。つまり額は「思い」や「こころ」を象徴しているのです(ヘブ10:16)。

本当の意味で「安息日を守る」

- ① イエス様を創造主として認めること(ヘブ1:2 他)
- ② 贖い主であるイエス様を永遠にたたえること(ヨハ1:29)
- ③ 小羊の行く所へは、どこへでもついて行くこと(黙14:1-5)

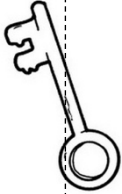
獣の刻印

* 聖書が忠告しているのはローマ教皇権という「権威 (システム)」であって、特定の個人または宗教団体ではありません。

獣とは？

* 詳しくは別紙“海からの獣”を参照してください

- 強大な政治的・宗教的力を持つ(黙 13:3,7,8)
- 神を冒瀆する(黙 13:1,5,6)
- 42ヶ月の間支配する(黙 13:5)
- 獣の数字—666で表される (黙 13:18)
- 龍の力と位いと権威が与えられた(黙 13:2)



獣の刻印とは？

獣の数字—666で表される獣の刻印は「その数字とは、人間をさすもの」(黙 13:8)であり、また獣の「名の数字」(黙 15:2)であると書かれています。

666とは何を象徴するのでしょうか？聖書には「ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。」と語っています。



神様からの忠告

獣の刻印についての神様からの忠告はあるでしょうか？

聖書には、神様は宗教のリーダーが「道を守らず、律法を教えるに当って、人にかたよ」り、そして「安息日を無視」するであろうと忠告されています(マラ 2:7-9)。また、耳に優しいことを語るもの(イザ 30:9,10)、また「時と律法とを変え」(ダニ 7:25) ようとするものが現れると警告されています。

“神の子の代理人”と名乗る者

ローマカトリック教会のマルチン祭司は、「ローマ教皇の職の名は Vicarius Filii Dei(神の子の代理人)である」と言いました。また、同教会のギエルマン師は、著書“The Convert’s Catechism of Catholic Doctrine”の中で「土曜日ではなく日曜日に我々が礼拝をする理由は、カトリック教会の権限によるものである。」と記しています。また、*The Catholic Record*では「教会の権威は聖書の上であり、安息日が日曜日から土曜日に変更されたことが何よりも証拠である。」と記しています。

666—現在の理解

黙示録 13章 18節の書き方を学ぶと、そこには黙示録が書かれた当時の人たちは、“666”の謎を解けるであろうことがわかります。2世紀より、“666”の解読法は主に、アルファベットに数字の意味を持たせる(geometria)、という解読法でした。その結果、現在は様々な解釈が存在します。しかし、黙示録 13章の流れを理解した時に、“666”という数字の刻印は、獣の致命的な傷が癒された後に現れることがわかります(黙 3:16-17)。祈って神様の知恵を求めつつ“666”の意味を探ることは良いことです。しかし、この数字を歴史上の人物、また現在存在する人や団体に当てはめるのは性急ではないでしょうか。現時点で私たちが自信を持って言えることは、“6”は不完全を(“7”の一つ前)、そして“666”は、その不完全さの極みであるということです。* 詳しくは Ranko Stefanovic: Revelation of Jesus Christ p.425-428

まとめ

額は思いを表し、手は行いを象徴しています(ヘブ 10:16; 伝 9:10)。そして、神様は私たちのことをよく知っておられるのです(II テモ 2:19)。安息日は「主の聖日」です。そしてそれは「尊ぶべき」「喜びの日」なのです！(イザ 58:1,13,14; 黙 14:9)

* 聖書が忠告しているのはローマ教皇権という「権威 (システム)」であって、特定の個人または宗教団体ではありません。裁くのではなくイエス様の愛に目を向けましょう！